

強くする。

だんだんに「次第に」と同じ手まね。

談判 「争う」の回と同じ。

談話 五指を集め合わせた両手を指頭で向い合わせて、交互に何にかを投げつけるように五指を開く。言葉を吐き合わせる事。

反物 五指を彎曲した両手を（円棒の両端を両手で持った姿態）前方下へ回転せる。

（反物を巻き上げる身振）

鍛錬 「稽古」の手まねを大きく力を入れて表わす。

チ

血 頬又は腕の一ヶ所を僅かに、人差指で切る真似をして、そこから人差指と親指の指頭を合わせて、下へ伝たわらせ（流れ落すこと）——赤。

遅延 遅い—時間（或は月日）—過ぎる。

智恵 「賢い」と同じ手まね。

近頃 少し—過去—から（時間の流れ）

地下鉄 掌を下向け五指の指頭を右にさした左手を地面として、その地下に「電車」の手まね。

近い 「少し」の要領で両手で表わす。即ち

両手（掌を上向け）夫々の指頭の上にさした人差指の僅か下に親指の指頭をつけ（これで「少し」の手まね）両手の間隔を短くして、同時に両指を弾ねるように開く。両者の間が少し即ち

「近い」と云うこと。

誓い 天（人

差指で天をさ

し）—約束。

違ふ 「相違」



と同じ手まね。

力落し 「がっかり」と同じ手まね。

地球 「世界」と同じ手まね。

遅刻 「遅い」「遅くれる」と同じ手まね。

知事 国（府県州）—政治—男性（少し上にさし上げる）

恥辱 「恥」と同じ手まね。

乳 かぎに曲げた人差指を（乳豆として）口にくわえ吸う真似。

父母 父 先ず、前提として、右の頬を指指と人差指にて軽くつまみ、その手で男性の指（親指）指を出して、それを眼の上にさし上げる。この前提の手まね、即ち親指と人差指にて頬肉をつまむのは、肉親を意味する。これを唯に人差指だけで頬を少しまで降してもよい。

母 前提の手まねは父と同じ。次に女性の

指（小指）を眼の上にさし上げる。眼の上にさし上げるのは、つまり、眼上の人を意味する。

父母（両親）を一度に表わすには男性の親指と女性の小指の二指を同時に表わせばよい。

実験 実際—経験—試みる。

茶 左手掌の上で、右手薬指と中指の指頭でものをかき廻わす真似—右手で土瓶を傾けて注ぐ真似—飲む（左手の五指で湯呑茶碗を持つ恰好で。）

茶色 「煙草」の要領。煙草の色即ち茶色。

注意 「気をつける」と同じ手まね。

中学校 掌を内側にした左手の指頭を右にさした人差指と親指をコの字形に平行にして、それに指頭を上にした右手の人差指をつけて、「中」の字形をつくる。—学校。